

夕大殿女子叙從四位下、名勳子。皇後宮上上卿中宮權大夫宗能卿有位記請印藏人辨資信仰下也。位記留御所、少納言雅國參仕、次件人有准三宮宣旨、召大内記令作勅書、給中務大輔忠兼封五百戶、勅有功必酬、遺葬範於竹島、積德餘慶、傳嘉猷於枝葉、從四位下藤原朝臣勳子、三朝輔弼之長女、四德淑美之哲、媛穠華養艷、三槐之露久薰、貞節在心、仙松之風靜調、今分恩輝於茅土之貢、將准徽譽、於椒庭之儀、宜授邑土五百戶、并年爵内外官三分、主者施行。

長承三年三月二日

上卿中宮權大夫宗能作者大内記令明中務大輔忠兼宣奉行

〔平戶記〕仁治三年十二月十八日丙寅、今日故四條院女御藤原彦子被下准后宣旨、殿下藤原良實御猶子之儀云々、仍令申請給也。

〔伏見院御記〕正應三年正月十九日、今日從三位藤原相子後深草皇後宮蒙准后宣旨、内大臣奉行之、先奏宣命草、次奏清書、有親族拜内大臣、三條大納言、皇后宮權大爲弘、長例云々、

〔日本紀略十一條〕寬弘八年六月二日甲辰、是日三品敦康親王叙一品、本封之外加一千戶、准三后給官爵。

内親王

〔准后准三后考〕内親王准三宮の始一品資子内親王

是は六十二代の帝村上天皇の皇女にて、冷泉院御同腹の御妹にてましますなり、此後内親王にこの宣下あること、連綿してたえず、

〔日本紀略六融〕天祿三年十二月十六日壬寅、勅資子内親王本封之外加千戶、

〔法成寺攝政記〕寬弘四年正月廿日戊午、内府候御前間被仰云、女一宮依前例叙一品、并本封之外加千戶、任人賜爵事如何、奏有前例被行、有何事奏仰云、其口口行者召外記尋前口天曆八年見日記、具